展示マンガ

「朝鮮半島の文化」展示

■
朝倉 敏夫（あさくら としお）
本館民族文化研究部
■

民博の「朝鮮半島の文化」展示の「現代文化」コーナーには、韓国のマンガ文化を展示している。その収集・展示は岡田浩樹さん（現・神戸大学教授）に担当してもらったが、多様化する韓国の大衆文化の状況を示す材料として、次の三つの視点でマンガを収集・展示をしたという。一、日本の影響を受けつつ、韓国的な世界を展開しようとする韓国のアニメの状況、二、「日本」のものだが韓国のアニメと見なされる、あるいはボーダーレスなポップカルチャーとして受け入れている状況、三、日韓のズレをしめすケース、である。

以下、日本アニメの韓国社会への普及を示す四点をあげてみる。

『クレヨンしんちゃん』は、『チャングはとめられない』というタイトルで、韓国でも大人気。日本製という理由より、子どもに悪い影響をお

よぼすというので教育委員会から批判もある。

全二七巻（文庫では全一四巻）の単行本としても刊行された『将太の寿司』のタイトルは、『ミスター寿司王』。韓国における日本料理（寿司）の普及とコミックとが結びついたもので、「寿司王」は日本料理のマスターを示すことばとしてテレビなどでも使われるようになっている。

『三国志』を題材にとった『蒼天航路』は、一九九四年一〇月から二〇〇五年一一月まで『週刊モーニング』（講談社）で連載されていた歴史マンガ。

『週刊モーニング』に一九八三年から一九九二年まで掲載された弘兼憲史のマンガ『課長島耕作』は、『島課長』で。青年向けのマンガで、性的描写の部分も多く、韓国ではその部分を白くぼかしたかたちで販売している。オビには、「成人用」と書かれている。